民の声を拝聴し、悔いの残らない取り組みをしていきたい。困難であっても挑戦するという姿勢は持っている。

(2)赤ちゃんポストについては、賛否両論あり非常に難しい問題である。事情により子どもの養育がどうしてもできない場合は、児童相談所等と連携を図りながら対処したい。民間医療機関等から要望がある場合は、行政としてしっかり受け止め協議したい。「日本一赤ちゃんを大切にするまち」宣言については、同感である。ぜひ関心を持って取り組んでいきたい。

(その他の質問事項)

・後期高齢者医療制度移行による切捨て反対。

新幹線の必要性に疑問！ 後期高齢者医療制度は高齢者にとって本当にいい制度なの？

大崎議員

(1)新幹線問題について

市の負担は16億円から32億円程度ということだが、大村市、諫早市のほか長崎市の負担はないのか？

新大村駅の周辺整備に関してどのくらいの費用が掛かるかの想定すらしていないのはなぜか？

新幹線が必要かどうかは、住民投票をするべき程の大問題であると思うが、費用負担額を提示しての市民意向調査をするのか？

(2)高齢者医療について

4月から75歳以上の全ての高齢者を対象とする後期高齢者医療制度が始まるが、これは高齢者の医療を制限するための制度になるのではないか？

また、現在の38万床ある療養病床ベッド数を15万床に削減するとあるが、行き場をなくす医療難民につながるとの指摘もある。市内の状況と対応はどうなっているのか？

副市長　(1)長崎市の場合は、この中に算定されていないので、基本的に負担は出てこない。

市長　まずは着工に向けていくことが大前提であった。平成17年10月に関係部署で組織する大村市新幹線推進協議会を設置しており、駅前広場やアクセス道路等の構想の検討を行ってきた。具体的には、駅前広場を西口と東口に設けた場合の2通り、東口のみの場合を4通り想定して、それぞれメリット、デメリットを検証している。これまでは着工がいつになるのか不透明な状況だったために踏み込んだ検討がされなかったことも事実である。しかし、正式に着工すると

なれば、新駅や周辺地区の整備を図るために市民参画をいただき、また専門家も入れながら進めていきたい。

企画部長　検討した結果について出せるものは、公表しながら参考にしてアンケートを実施する予定である。

福祉保健部長　(2)医療は、本当に必要な方にかかっていただきたいと思っており、必要な人まで制限をかけるということはないと信じている。

療養病床ベッド数を削減するという動きは現時点では出ていないとのことである。

(その他の質問事項)

・ガソリン暫定税率について

富の原小学校増築について 地場産業育成について

中瀬議員

(1)富の原小学校増築

宅地開発が進むこの地区は教室不足で仮校舎での授業が長年続行中。職員室も手狭で足の踏み場もない。市内からの新築移住者も多くまだ児童数は増えることは明白。まず早急に用地を確保し次年度で校舎建築という2段構えでいけば単年度負担が軽くなり、無理なく建設ができると思うが。増築計画は？

(2)地場産業育成

企業誘致と同様大事な事。規模は大きくなくても、自動割卵機を考案されたミタカ電機、玉葱収穫機を開発された田中工機、県の工業試験場の研究員の依頼で特殊な乳がん測定器の部品を作り上げた五島精密、分野は違うがまだ何処でも聞いたことのない温室コーヒー園を立上げ、頑張っている寿古珈琲があり、地元のこうした産業を支え、事業の拡大と安定化を図る事が必要と思う。どのような取り組みを考えているのかお聞きしたい。

教育次長　(1)富の原地区は、宅地開発などが進んでおり、児童数の増加も見込まれている。したがって、教室増については早急に対応しなければならないと考える。現在、増築について検討しており、増築場所については、現有敷地内に建設するように検討している。運動場用地については、小学校の設置基準を超えているので、新たな用地購入については今のところ考えていない。なお、増築の時期については、平成22年4月に供用開始できるように検討している。増築の際には、県内産の杉やヒノキが活用できないか今後検討したい。

市長　(2)現在県下でも順調に人口が伸びている中、若年労働者を